

7. 十日町市地域おこし実行委員会

棚田名	池谷の棚田
所在地	新潟県十日町市中条庚
百選等の認可	なし
棚田の概要	枚数不明。耕作放棄は少ない。転作作物はサツマイモ、トマトなど（いずれも小規模）
保全団体	十日町市地域おこし実行委員会
設立年	2005年（平成17年）
沿革	2004年10月の中越地震で甚大な被害を受けたのをきっかけに、翌年春に発足
代表者	代表 山本 浩史
連絡窓口	十日町市地域おこし実行委員会 info@iketani.org 〒949-8613 新潟県十日町市中条庚939-2 池谷分校内
会員	池谷集落6世帯(11人)全員と、池谷・入山集落出身者などを含む14世帯25人
主要メンバー	代表：山本浩史 副代表：曾根 武、曾根一真 会計：今村 安
拠点施設等	①やまのまなびや(簡易型滞在施設) ②実るいけだん(集会所、ミニ精米プラント) ③旧野口邸
ポリシー 又は活動の方向性	棚田米の生産と販売により生活基盤を確立し、新たな定住者を得ての集落存続を目指す。地域内での生産量から自家用飯米や縁故米を除くと、現段階での最大販売可能量は60トン程度であるが、十数軒の近隣農家から「販売が軌道に乗れば参加したい」という意思表示も得ており、販売体制の確立・販売量と販売ルートの拡大が目下の最大の課題。
活動状況	
運営資金	
広報ツール	http://www.iketani.org/ ネットショップ(http://shop.iketani.org/)
協力者	中越大震災の復旧支援をきっかけにJENを始め団体・企業の支援が手厚い
市民交流制度(オーナー制度など)	①国際緊急支援NGO(JEN)が、震災直後からボランティアを送り込み復旧を支援、現在もサポート中 ②中越復興市民会議、NPO法人まちづくり学校などが復旧支援から地域づくりへとアドバイスを継続 ③大塚商会、Fedex、モルガンスタンレー、アストラゼネカ、日本郵船が寄付やCSR活動等で支援
棚田米販売	06年産米から実質スタート。販売ルートはネットショップ、ボランティア参加者や関係者などの口コミ
特産品開発	
直売所	
定期的イベント	雪かき道場(2月)、山菜祭り(4月中旬)、収穫祭(11月初旬)
地域の状況	
直接支払の状況	1期、2期とも受託
地域おこしグループ等	外部スタッフ委員会
後継者対策	
I・U・J・Oターン	集落存続の切り札として、さまざまな努力を継続中。
ボランティア受入	積極的に受け入れ中
行政の支援	震災復興資金を受取る際や拠点施設「やまのまなびや」の無償借受けに際しての相談など
備考	